

たまには古典も読んでみる 東洋の古典 ～何はともあれ、先ず読もう

朱子著『大学』 明治書院

よ

く、四書、五経という言葉を聞きます。四書とは「大学」、「論語」、「孟子」、「中庸」で、五経とは「詩経」、「尚書」、「易経」、「春秋」、「礼記」です。これらは東洋の古典中の古典の代表例ですが、なかでも朱子は「大学」を最初に読みなさいと教えています。「大学」は冒頭「初学徳に入る門なり」と強調しています。朱子によれば、大学は徳を修める所ということとなります。

だが、大学に入るには前提条件があります。「小学」を修め、実践しなければならぬからです。「小学」の冒頭には、掃除や人と人との対応がきちんとでき、親や目上の人に対して尊敬の念をもって接することが基本である、と語られています。こうした基本的



なことを修めた者が大学に入る資格がある、と「大学」は教えています。逆に言えば、「小学」にたわれている基本的なものを修めていなければ、大学に入る資格がないこととなります。せめて「小学」は是非終了してほしいと思います。

徳を修めるということは、限りなく自分の身を修めることになるわけです。「修身」です。修身という徳川時代、戦前の悪いイメージがありますが、限りなく徳を修めるといのが本来の意味です。「修己治人」、己が修められないでどうして人を治めることができようか、「大学」の目的がここにありまます。これから本格的に研究を始める皆さんに、是非手に取



山崎 益吉 (やまざき・ますきち)

経済学部教授。

1942年生まれ。高崎経済大学、青山学院大学大学院修士課程卒業。文部省の在外研究員としてロンドン大学で研修。1969年高崎経済大学助手。講師、助教授を経て1982年教授。日本経済思想史、経済学方法論を担当。横井小楠の儒教的理想社会を経済的視点から追究。横井小楠研究会会長として『新横井小楠全集』（仮題）の刊行に取り組んでいる。